

## 第二次川越市観光振興計画（原案）に対する 意見募集の概要と結果について

### 1 意見募集の概要

(1) 募集期間 平成 27 年 12 月 29 日から平成 28 年 1 月 27 日まで

(2) 募集対象 市内に住所を有する方  
市内の事業所等に勤務する方  
市内の学校に在学する方  
その他この案に関し利害関係を有する方

(3) 閲覧方法 観光課、市民センター、南連絡所、本川越駅証明センター  
公民館、図書館、小江戸蔵里  
ホームページからの閲覧

(4) 提出方法 直接持参  
郵送  
ファックス  
市ホームページからの電子申請

### 2 意見募集の結果

(1) 意見提出者数 4 名

(2) 意見数 12 件

(3) 提出された意見の概要及び市の考え方 次のとおり

		意見の概要	意見に対する市の考え方
1	全体 への 意見	「喜多院」、「蔵の町」に続く第三の観光スポットとして川越城本丸御殿の周辺を整備し、「川越城址公園」を設置してはどうか。	歴史や伝統文化を生かした観光資源の発掘・磨き上げを図るため、政策(1)に関連施策を位置づけております。「川越城址公園」の設置につきましては、第四次総合計画の取組施策に位置づけがされており、関係部署を中心に整備を検討してまいります。

		意見の概要	意見に対する市の考え方
2	全体への意見	圏央道からのアクセスが良いあぐれっしゅ川越の駐車場を拡大し、大型バスの駐車場を確保することで、町中の交通渋滞を減少させる。川越への東からの玄関口を作ることにより、観光客の流れを分散化できる。また、広域観光を考慮して、周辺市町村のPRや物販を行う、観光案内所をあぐれっしゅ川越内に設置してはどうか。	あぐれっしゅ川越と共同で利用している郊外型駐車場の拡大・新設等に係る検討につきましては、本計画において施策の一つに位置づけております。 広域観光につきましても、施策として位置付けがされておりますので、関係者と協議して検討してまいりたいと考えております。
3	全体への意見	仙波河岸から旭橋までの新河岸川を整備し、舟を運行させる。周辺には、「足踊り」などの民族芸能や民話が残されているので、「ふるさと」の再開発を行う。	本計画では、施策2-1に新河岸川等の水辺空間の有効活用を図るための取組が記載されております。各地域に残る伝統芸能や民話と結びつけた施策として展開が可能か、検討してまいります。
4	全体への意見	新城下橋から高沢橋までの旧赤間川に遊歩道を設置し、旧赤間川沿いの氷川神社等の観光資源をPRする。遊歩道の整備により、観光客が西側から町中に入ることができ、観光客の分散化と安全向上に寄与するものと考えられる。	旧赤間川沿いにある観光資源のPRにつきましては、「小江戸川越みどころ90観光コース」に旧赤間川沿いを巡る観光コースを設定しており、周知を図っております。遊歩道の整備につきましては、関係機関と今後調整してまいりたいと考えております。
5	全体への意見	目標値が低いので、もっと高い目標値を設定することがより良い施策が出てくると思います。具体的には、市制100周年(平成35年)までに、観光客1,200万人を目標値に掲げてはどうか。	数値目標につきましては、観光客数のほかに、観光客の滞在時間や平均消費額を目標値に設定しております。今後、人口減少、少子高齢化が進行する中で、数量的な視点だけではなく、観光客の満足度や観光による地域への経済効果といった、質の面の向上が重要になるものと考えられます。

		意見の概要	意見に対する市の考え方
6	全体への意見	現在の観光スポットは旧市街地の一部地域に集中しているため、荒川・入間川の河川敷を活用し、「河の駅」を拠点とした誘致施策を行ってはどうか。	本計画において「水辺空間のネットワーク化」を施策として位置付けております。ご提案の内容につきましては、本計画との関連の中で有効活用のための方策を調査・検討してまいります。
7	全体への意見	蔵造りの町並みと川越まつりを発展させ、観光の見どころを拡大するために、江戸から昭和に至るまでの町並みと庶民の暮らしを再現し、「お祭り体験型テーマパーク」を作ること、年齢層、交流人口、リピーターの拡大を図ることができると考えます。	ご意見にありますように、本市には、江戸、明治、大正、昭和とそれぞれの時代の要素がございます。それらを観光資源として生かしていくことは、市制100周年に向けて本市の魅力の向上に寄与するものと考えられます。ご提案内容につきましても、本計画との関連の中で今後進めていくことが可能かどうか検討してまいります。
8	全体への意見	観光と環境を両立する視点が重要と考えます。川越は商業の町ですが、郊外には田畑や雑木林が見られる自然豊かな町でもあります。	本市の郊外には、昔ながらの農風景や雑木林といった自然が残っており、本市の魅力の一部を構成しております。これらの資源を活用するためには、観光と環境を両立する視点が重要であると考えます。
9	全体への意見	市民が川越という町を好きになり、誇りに思うことで、観光客に対するおもてなしの心遣いは醸成できます。次世代の子供たちに川越人としてのアイデンティティー教育を並行して取り組むことで、観光人材の育成・継続という仕組みも可能になると考えます。	市民が観光に関わり、自らも観光を楽しむ環境づくりを進めることで、住んでいる町への愛着と誇りを醸成することができるものと考えます。本計画では、基本方針に市民参加の観光を掲げ、戦略的重点施策にも関連施策を位置付けております。

		意見の概要	意見に対する市の考え方
10	P12	民泊を推進し、都心や鎌倉のような観光地に競争しうる安価な宿を設置することが重要です。	施策55として、「宿泊観光の推進」を施策として位置付けておりますので、民泊施設等の推進につきまして、関係機関と調整し、調査・検討してまいりたいと考えております。
11	P38	施策60の観光ガイドの育成については、年齢問わず、観光ガイドの育成を早急に進めてください。施策61の観光キーマンの育成も重要と考えます。キーマンの育成、情報収集プラットフォームづくりはすぐにでも取り掛かるべき課題であると考えます。	「観光ガイド」の育成につきましては、戦略的重点施策に位置づけられており、地域のプラットフォームになる新しい組織づくりの検討と合わせ、進めてまいります。
12	P40	施策67にある「空き店舗」を活用して、施策69にある「おもてなし講座」、「おもてなし英会話」等の施策を行うことを提案します。	空き店舗の活用につきましては、観光客と市民の交流拠点としての活用のほか、様々な形での活用が想定されます。今後、関係部署や関係機関と連携し、活用方を検討してまいります。